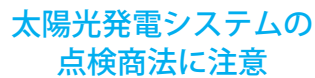




問合せ 太田年金事務所 ☎49-3716



【ひとこと助言】

【事例】

突然、業者が訪問してきて「太陽光パネルの点検が法律で義務化されたので、無料で点検する。最近、火災事故が起こっている」などと説明された。後日、改めて業者がやってきてドローンを飛ばして点検した。「太陽光パネルをサーモモニターで確認したところ赤くなっている。太陽光パネルを長期使用するためには洗浄とコーティングが必要」と言われ、約40万円の契約をした。インターネットで調べた娘から「だまされているので解約をするように」と言われた。業者の説明が虚偽なら解約したい。(80歳代)

「太陽光発電システムの点検が義務化された」などと言われて無料点検を勧められ、点検を受けた結果、太陽光パネルの洗浄などの高額な契約を迫られたという相談が増えています。太陽光発電システムを安全に利用するためには定期的な点検を行うことが重要ですが「点検が義務化された」など契約を迫るセールストークには慎重に対応しましょう。「点検は義務」と言われても安易に契約せず、まずは点検の要否を設置業者に相談しましょう。また、点検や契約をする場合はその場で決めず、複数社から見積もりを取り検討しましょう。困ったときは、消費生活センターへご相談ください。

相談は消費生活センターまで ■82-7830 (ナヤミナシ)



やまこし みつえ
朝日野在住

多くの趣味をお持ちとのこと。
コーラスや吹き矢、フォーク
ダンスなど、公民館で活動し
ているそうです。

短歌との出会い

「もともと興味もなく、私には無理だ
 と思っていた」と笑って話してくれたの
 は、月に2回全国紙に短歌を投稿し、20
 回以上掲載されたという山越さん。短歌
 との出会いは南部公民館で開催された短
 歌教室でした。所属している書写クラブ
 の仲間が講師を務めるということで参加
 しました。それから他人の短歌を読み、
 勉強したそうです。初めて全国紙に掲載
 された時は「とてもうれしく、面白く
 なっていった」と言います。

身近なことを題材に

「ふとした瞬間に思いつくことがあるので、いつもメモ帳を持ち歩いています」と言う山越さん。散歩をしている時など、町内で見たり、聞いたりしたことを題材にしているそうです。自宅の庭や渡良瀬遊水地、揚舟、板倉まつりの花火などを詠んだものが多くあります。「短歌を詠

Face
フェイス

全国紙掲載20回以上

ふとした瞬間を短歌に
板倉町を知ってもらいたい

むために、遠出はしないのですか」と伺うと「わざわざ遠出はしないですね。短歌を通して、大好きな板倉町を知ってもらいたいので」と答えてくれました。ご自身の短歌が掲載されることで、名前だけでなく「板倉町」と書かれることに喜びを感じるそうです。ただ、短歌を詠む際には苦労もあるとのこと。「よく悩むのが助詞の使い方です。『は』にするのか、『が』にするのかでニュアンスが変わってくるので」と言います。悩んだ時は、ご主人に相談することもあるそうです。

夢は大きく

最後に今後の目標について伺うと「新年の宮中行事である歌会始うたかいはじめの儀で、天皇皇后両陛下の前で読み上げられることです。毎年、約15,000首の中から10首が選ばれる超難関ですが、夢は大きくです」と笑顔で話してくれました。いつの日か、板倉町の日常が歌会始の儀で読み上げられることを期待しています。



レポーター
広報編集委員
たまがわかつみ
玉川勝美

●診療時間は、午前9時～午後5時（ただし、耳鼻科の診療時間は、午前9時～午後1時） ●内科系の※は、小児科のみとなります。